

スズメノカタビラは今年のうちにしっかり防除！

発生してしまったスズメノカタビラは適切な茎葉処理剤で対応を

まずは スズメノカタビラの 生態を知ろう



発芽

発芽適温：日中気温が21°C前後
：夜間気温が10°C前後

- 夏の終わりから秋の初めに1回目の発芽ピーク
- 冬の初めごろに2回目の発芽ピーク

生育

最大生長温度：15.5°C ~ 21°C
生育可能温度：-15°C ~ 29°C
根の最大生長温度(地温)：18°C ~ 21°C

- 発芽したスズメノカタビラは秋から冬の初めまで分けつを繰り返し、冬の終わり頃になると栄養繁殖から種子繁殖に切り替わる
- ただし、早期に種子をつける個体も多数存在する

生育環境

- 湿潤な土壌、固結している土壌、窒素・リン酸が多い土壌などを好む
- 日陰地でも旺盛に生育する

種子

- 自家受粉も他家受粉も可能
- 各々の小さな株から、発芽能力のある種子は数百個つくられる
- 種子は土壌中でその発芽能力を6年間以上も維持することができる

参考文献：L・Bマッカーティー著 ゴルフコース管理ベストマネジメント

スズメノカタビラの様々なバイオタイプ



出穂時期の異なるタイプ



形態の異なるバイオタイプ



ほふく型

スズメノカタビラの防除が困難な理由

理由その1

2回目の発芽ピークの時には、
土壌処理剤の効果が弱くなっている場合がある

理由その3

様々なバイオタイプがあり、
バイオタイプによって除草剤の感受性や
発芽時期に差がある可能性がある

理由その2

茎葉処理剤によって
枯れているように見える個体でも、
復活(再生)してくる場合がある

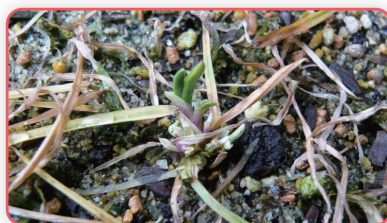
理由その4

一度シードバンクができると、
6年以上は発芽してくる可能性がある

枯れているように見える個体が復活(再生)する場合も



撮影日 2月11日



撮影日 2月12日



撮影日 3月17日

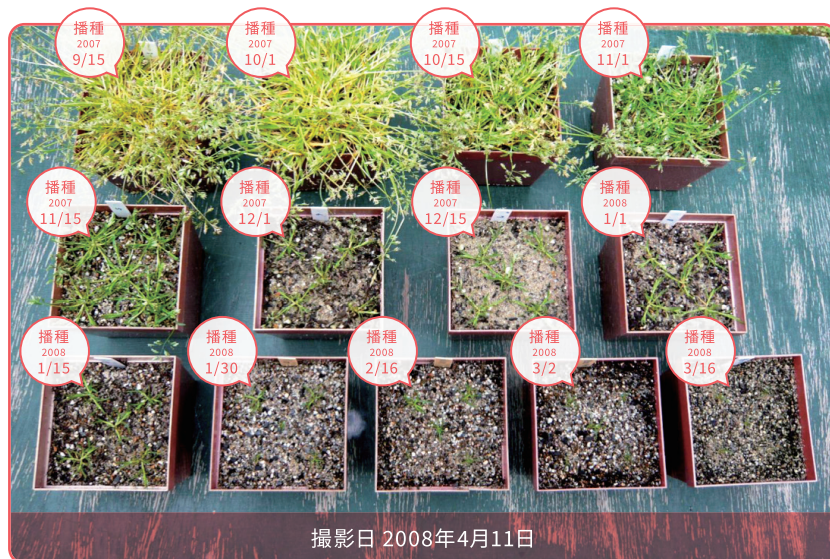
春に目立つ

スズメノカタビラは
秋に発生していた!

9月15日から3月16日まで
約15日おきにスズメノカタビラを播種

4月に目立つスズメノカタビラは
前年の秋から年末に発芽していることが
推察される結果に

発生してしまったスズメノカタビラは
年末までに確実に枯らすことが重要です



撮影日 2008年4月11日

Envuがおすすめる茎葉処理剤

- ・ 晩秋から早春処理で再生が少なく高い防除効果
- ・ 寒い時期でも効果が安定
- ・ 株化した大型個体にも安定した効果

◎ 展着剤の加用をおすすめします

来春に備えて、スズメノカタビラ防除は
年内中に終わらせましょう